

CONTENTS

有機農家にインタビュー！
○株式会社 三島ファーム 三島淳寛さん…………… 1

『しまね有機の郷』現地レポート
○美郷町有機農業推進協議会さん

宣言者のページ
○山陰やさい家族 河津 和彦さん…………… 2

NPO法人島根有機農業協会 波及講座開催報告 …… 3

水田除草機実演会開催報告
有機農産物の販売力強化研修会(第1回)開催について…… 4

シリーズ第30弾「環境農業」トピック…………… 5

イベント情報等…………… 6



平成28年9月

第34号

島根の『環境農業』情報誌



『環境農業』に関する県の考え方や事業の進行状況をリアルタイムでお伝えし、皆さまとネットワークを結ぶことを目標としています。

有機農家にインタビュー！～株式会社三島ファーム 三島淳寛さん～

毎日の生産、出荷で忙しい中インタビューを受けていただいた三島淳寛さん。今回は、浜田市で有機の軟弱野菜を中心とした農産物の生産を手がけ、今年度から本格的に加工品の製造・販売にも取り組む予定の株式会社三島ファームの三島淳寛さんを紹介します。



結婚を機に島根県に来ました

「学生の時からいつか農業をしたいと思っていましたが、島根県に来たのは結婚がきっかけでした」

京都府出身で、大阪の農業機械メーカーで働いていた三島さん。浜田市で仕事をしていた奥さんと結婚について話合った結果、三島さんが1ターンすることになり、当初は農業ではなく農業機械の販売・修理を行う会社でサラリーマンをしていたとのこと。

その中で農業への思いが強くなり専業での就農を決意したところ、当時お客さんとしてお世話になっていた「いわみ地方有機野菜の会」の会長さんのすすめで、会で勉強させてもらえることになり、平成22年に就農、平成23年にハウスを建て、本格的に有機野菜の栽培を始めることとなった。

病気や虫に悩まされながら、日々悪戦苦闘中です

「なかなか生産量が安定せず、ハウス一棟すべてダメになることもあります」
順調な時もあるが、病気や虫が大量発生すると、ハウス丸ごと出荷ができなくなり、月の売り上げがガクッと落ちてしまうこともあるそう。

「雇用している社員やパートさんに満足感をもって働いてもらうために一生懸命です」
今年設立した会社の社長としての責任感や難しさを日々感じ、悪戦苦闘しながらも、周りの先輩たちに助けられながら有機農業にまい進中だ。



これからは有機農産物の加工をはじめとした新たなことにも取り組んでいきたい

「今後は、有機農産物の生産拡大を進めつつ、加工食品の製造・販売など新たなことにも取り組んでいきたい」

今年、野菜調製場新設に併せて加工場も整備し、冬からはサツマイモをはじめとした野菜の加工品製造を始める予定だ。

「インターネットでの農産物・加工品の販売や、新たな商品開発、販路拡大など、やりたいことはたくさんあり、休みはほとんど無いが、魅力的な会社をつくることで次世代にわたって続けていけるよう頑張っていきたい」

大きな夢でも信じて努力することで、限りなく近いものを実現することができる。

プロフィール

かぶしががいしゃ みしまふぁーむ
みしまあつひろ
京都府出身
平成22年に就農し、平成28年に法人化
栽培面積は約130aで軟弱野菜を中心に
さつまいもなどの加工品にも取り組んでいく
現在の主な販売先は、地域の仲間と
運営している販売会社や近隣のスーパーや直売所など

【県農産園芸課有機農業グループ】

『しまね有機の郷』
現地レポート

第4回

美郷町
美郷町有機農業推進協議会さん



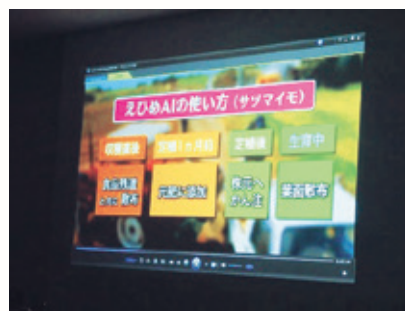
美郷町有機農業推進協議会は、有機農業の推進・啓発、有機農業者の技術向上、販路開拓を目的とし、平成27年10月28日に設立しました。

その後、みんなでひろげる有機の郷事業(地域活動支援事業)を活用し、有機農業セミナーの開催と美郷町有機農業推進協議会Webサイトを構築しました。

有機農業セミナーは野菜づくりに興味のある方が家庭菜園からでも有機農業を始めるきっかけとなるよう初心者向けの講座を開講しましたが、3回シリーズで延べ93人の参加があり、安価で簡単にできるえひめAIの作り方や太陽熱養生処理の方法について学び、土づくりへの意識を高めました。

平成28年度もみんなでひろげる有機の郷事業(地域活動支援事業)を活用し、引き続き有機農業の推進・拡大に取り組むほか、学校・保育園の給食への有機農産物の提供、小売市場やイベントで有機農産物の良さを直接消費者にPRする活動を行う予定です。

美郷町有機農業推進協議会ホームページアドレス
<http://misato-yuki.itn21.net/>



宣言者のページ

宣言者の方から届けられた声です!

島根県の農家の想いを理解していただくために

山陰やさい家族 河津 和彦さん

8月10日に、島根大学の山岸先生が開催されている開放授業に招かれ、「島根の魅力(味力)を伝える伝道師by河津和彦」という題目でお話をさせていただきました。

この開放授業は、島根大学内にある『みのりの小道』というミニ学術植物園で、大学職員や学生、一般市民の方たちと一緒に活動することで、学生・地域とともに育ち、歩む大学ということを目指して活動しておられます。

今回は、松江市川津町の土でのレンガづくりや、ブルーベリー収穫、唐箕(とうみ)での小麦選別等の作業や体験でした。

特に、唐箕での作業は初めてで、昔の方たちの知恵に驚きつつ、大汗をかきながら作業を行いました。

その後、木陰の中で、有機農産物や、エコ農産物のことを中心に話をさせていただき、島根県の生産者の想いについて話をさせていただきましたが、実際、八百屋として販売している中で、生産者のこだわりや苦労を消費者の方へ理解していただくのが非常に難しいと身を持って感じています。

なかなか一筋縄ではいかないとは思いますが、生産者と消費者を直接つなげる気持ちを常に持ちながら、地道な活動を進めていくことで、島根県の魅力を広めたいと考えています。



有機農業講座のご報告

NPO法人島根有機農業協会

蒸し暑さが続くさ中、県内で当協会主催の講座が2つ開催されました。参加者のみなさんは、夏のご褒美に講師から濃ゆ〜いエキスを吸うことができたのでは??

7.14

(江津市の石央地場産業振興センターにて)

講師：涌井義郎氏

一昨年から開催している江津市の有機農業講座よきみに参加してこられた方々を始め、総勢50名以上が参加されました。講師の涌井義郎氏は、茨城県の鯉淵学園農業栄養専門学校に勤務時代に有機農業を指導。有機農業への就農を支援するため、「あした有機農園」を開講し、理事をされています。平成25年からは、島根県有機農業アドバイザーとしても活躍されています。

講義では、たい肥・ぼかし・緑肥のこと、農地の生態系のこと、適期の栽培・じっくりゆっくり育てることの大切さ、拮抗作用(例：ウリ科とネギの混植の効果)のことなどさまざまな視点で実践をもとにお話されました。土をいじりすぎない方がよいという事例として、不耕起トマトの6年連作実験の成功例も紹介されました。また、家畜やミツバチ、廃油や薪といった自然エネルギーの活用といった多面的な取り組みも紹介されました。

・参加者の質問と回答

「刈り草のたい肥づくりの方法は?」「草の種が入るのでは?」

→「1年間ただ積んで放置する。それを、稲わら、米ぬか、腐葉土など入手できるものとまぜて3ヶ月積んで完成。分量はこだわらない。」「種はたくさん入っている。気になるなら梅雨明け前くらいまでのほうが少ない。」



7.28

(浜田市のJAしまねいわみ中央本部にて)

講師：石綿薫氏

浜田市内のJA会員をはじめ、総勢50名以上が参加されました。講師の石綿氏は、(公財)自然農法国際研究開発センターで有機栽培技術の研究開発に取り組まれてきた方で、現在はお自身の研究の成果や経験を生かし、長野県松本市にてトマトを始め10品目以上の自然栽培を実践されています。

今回は、「一般農法から有機農業への切り替え方と土づくりと病害虫の対策について」というテーマでお話いただきました。病害虫・雑草が多発する3要因(主因・素因・誘因)を図のように説明され、3要因を減らすために何ができるのかを、石綿さんの地道な研究結果をもとに説明されました。

・参加者の声

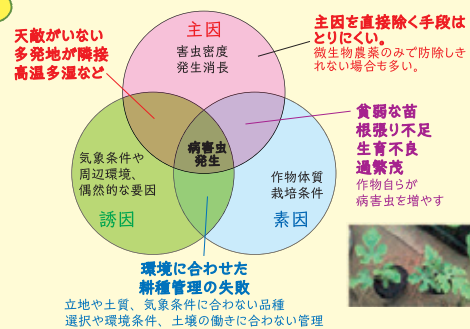
「いろいろな実験を元にしたお話を聞けたので、興味深くわかりやすかった。」

「虫もタンパク質の多いものを求めて食べることや、作物を作り続けることで作物が良く育つこと(を学んだ)」

「ヨトウムシに困っていた今までは予防に頼っていたが、有機農業への取り組みに関心を持った。土作りにももう少し取り組んでみたい」

「連作をする際のポイントを聞きたい」「圃場の土の良し悪しは何を見ればよいのか知りたい。」

病害虫・雑草が多発する3要因



石綿薫氏の講座は全3回を予定しています。次回は9月15日(木)に現地視察を予定しています。お楽しみに・・・。

お問い合わせ先

詳しくは島根有機農業協会までお問合せください。ホームページにも掲載しています。

連絡先: 電話/FAX 0855-75-0017

Mail: shimane-yuki-nougyou@feel.ocn.ne.jp

HPアドレス: <http://www.shimane-yuki.or.jp/>

「有機ひろげる米づくり」 水田除草機実演会

平成28年度

「第1回水稲有機栽培技術交流セミナー」を開催しました

島根県では、水田用除草機による機械除草を雑草対策の基幹技術とした有機水稲栽培技術の確立に取り組んでいます。今年度は「有機ひろげる米づくり」実証ほを県内5か所(安来、松江、出雲(2か所)、大田)に設置し、現地での技術実証を進めています。

生産者並びに関係者の理解を深め、有機農業の面的拡大につなげるため、島根県主催で、5月30日に大田市、6月3日出雲市久多見町、7日出雲市斐川町、安来市の各会場で、水田用除草機実演会を開催しました。実演会では農業技術センター職員が機械除草を基軸とした有機栽培の技術体系などについて説明した後、実証ほにおいて、農業技術センターが開発した株間除草ブラシを装着した水田用除草機の実演を行いました。

また6月8日には、水稲有機栽培技術セミナーとして、農業技術センター職員による技術体系等の説明や農研機構農業技術革新工学研究センター吉田氏の講演、農研機構の開発した「高性能水田用除草機」の実演会を出雲市佐田町で開催しました。参加された方は、水田用除草機の作業速度の速さや操縦のしやすさに、驚いておられました。

5会場合わせて100名以上の参加者があり、水稲有機栽培に対する関心の高まりを実感することができました。

今後も有機栽培の面的拡大に向けて、各種セミナーの開催を予定していますので、多数のご参加をお待ちしております。



【県農産園芸課有機農業グループ】

販路拡大に向けて食品流通の基礎を学ぶ

～有機農産物の販売力強化研修会(第1回)を開催～

「販路を広げたいけど、流通のことが分からない」「自分の商品に自信あるけど、何を伝えれば良いのかな?」といった悩みに応えるため、『新規就農者等のための販売力向上対策』をテーマに、平成28年7月5日(大田市商工会議所)、6日(松江合庁)で、『有機農産物の販売力強化研修会』を開催しました。

講師には、新日本スーパーマーケット協会 推進役 飯塚理夫氏をお迎えし、市場の動向や、バイヤーが商品进行评估する視点、小売業界へ売込む方法など、現役バイヤーならではの流通のノウハウについてお話をいただきました。

「生産者は、栽培方法や品質など商品の中身ばかりPRしがちだが、どんなシーンでどのように食べるのか、食卓をイメージした具体的な提案が重要で、行事・催事・記念日など販売チャンスにつながるネタを研究し自らの商品と結びつけて提案することが効果的。バイヤーと生産者は対等な立場で、儲かる方法を一緒に考える関係を築くことが大切である。

有機農産物は小売店のステータスを上げる高付加価値商品であり、美味しく健康に良いものを選ぶ客層は着実に増えている。」と、今後の期待を込めたお話を聞くことができました。



【県農産園芸課有機農業グループ】

蒸気を利用した水稻の種子消毒

農薬を使用しない水稻の種子消毒法として温湯処理が全国で広く行われています。温湯処理は60℃の温湯に10分間浸漬する方法が一般的ですが、処理後に脱水、乾燥の工程が必要です。そこで、蒸気を利用することによって脱水、乾燥工程を省き、ランニングコストも削減できる種子消毒装置が農研機構生物系特定産業技術研究支援センター(本年4月より農業技術革新工学研究センター)で開発されました(写真1)。この装置を使用して種子消毒試験を行いましたのでその概要を紹介します。

調査した病害は、いもち病、ばか苗病、ごま葉枯病で、使用した籾は各病害の多発生したほ場から採取しました。各病害とも蒸気処理(75℃)、温湯処理(60℃10分間)、薬剤処理(各病害に効果の高い薬剤で浸漬処理)の3処理と無処理の、合わせて4処理について処理後に播種、育苗して発病苗率を調査し、防除効果を判定しました。その結果、蒸気処理は、温湯処理の効果が高いごま葉枯病(図1)について高い効果があり、いもち病(図2)、ばか苗病(図3)に対しては温湯処理とほぼ同程度の効果がありました。

本県では3つの病害について調査しましたが、これら以外の種子伝染性病害については共同研究機関で調査され、イネシガラセンチュウには温湯処理よりも高い効果があり、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病に対しても温湯処理とほぼ同程度の効果があると報告されています。

現在、蒸気を利用した種子消毒装置は市販に向けた調整中であり、また、麦の種子消毒機能の追加などの改良が行われているところです。

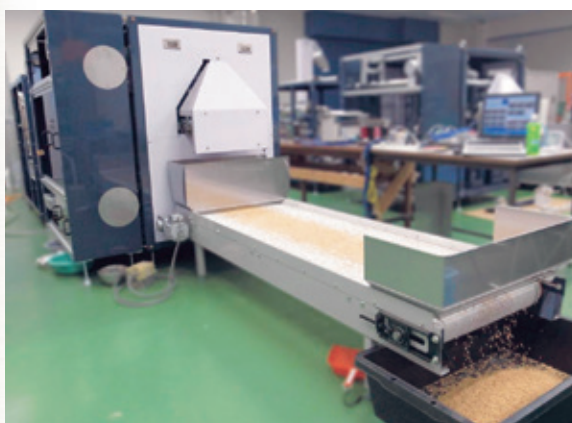
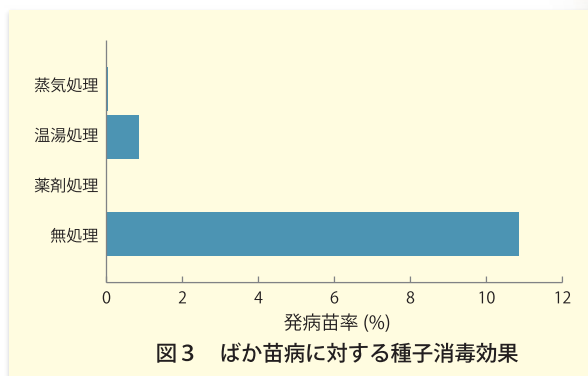
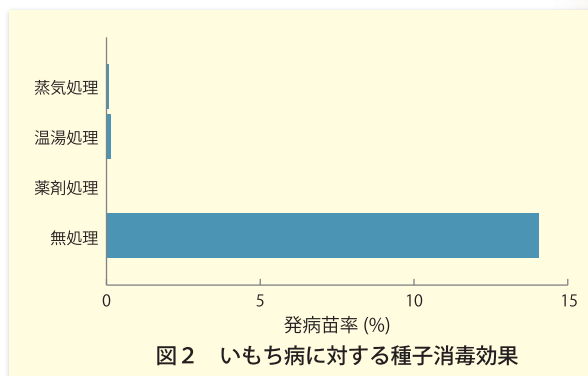
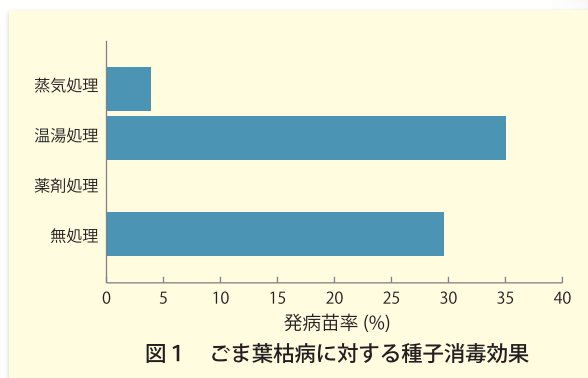


写真1 蒸気を利用した種子消毒装置
(農研機構農業技術革新工学研究センター提供)

お問い合わせ

県農業技術センター資源環境研究部病虫科
TEL: 0853-22-6905
E-mail: nougi@pref.shimane.lg.jp



人と環境にやさしい 島根県産 有機農産物・エコロジー農産物 消費拡大キャンペーン を実施します!



消費者の方に、県産有機農産物、エコロジー農産物の購買を促し、これらの価値を知ってファン拡大につなげることを目的に、消費拡大キャンペーンを実施します。

期間中、県内スーパー等にご協力いただき、県産有機農産物・エコロジー農産物のコーナーを設置します。

これらの商品を買って、袋に付いている有機JASマーク又はエコロジー農産物のマークを集めて応募すると、抽選でプレゼントが当たります。

詳細は随時、県ホームページや、フェイスブックでお知らせしていきます。

まめ知識

食品表示についてお知らせ

食品表示について定めた新しい法律「食品表示法」が平成27年4月1日から施行されました。一般用生鮮食品の経過措置期間は平成28年9月30日まで、10月1日から完全施行されます。



いちごの包装に「ビタミンCたっぷり!」と表示しようとする場合

【表示例】

栄養成分表示 1個(可食部標準30g)当たり	
熱量	10kcal
たんぱく質	0.2g
脂質	0g
炭水化物	2.5g
食塩相当量	0g
ビタミンC	20mg

表示に用いる活字の大きさは原則6ポイント以上です。

「ビタミンCたっぷり!」のような栄養強調表示をしようとする場合、ビタミンCが食品表示基準に規定する栄養成分であるため、「栄養成分表示をしようとする」場合に該当します。このような場合、食品表示基準に従って栄養成分表示をする必要があります。基本5項目に加え、ビタミンCの栄養成分表示を枠内にします。その際、ビタミンCの含有量が強調表示「高い旨」の基準を満たす必要があります。また、ビタミンCについては合理的な推定値による表示は認められません。

気を付けて!

生鮮食品の栄養成分表示は任意ですが、表示しようとする場合は食品表示基準第21条に従い表示します。



※食品表示に関する相談・問合せは、最寄りの保健所までパッケージに印刷される場合は、あらかじめ保健所までご相談ください!

島根県有機農業グループの公式Facebookページを運用中!



アカウント名

島根県有機農業グループ

FacebookURL: <https://www.facebook.com/shimane.yuuki>

*生産者からの情報提供も受け付けております。掲載、リンクを希望される場合には、有機農業グループ(0852-22-6477)までご連絡ください。



宣言の状況

(平成28年7月末現在)

3,837件

消費者の方……3,060件
農業者の方……640件
企業・学校等……136件
その他……1件

- この情報誌は、「環境を守る農業宣言」をした生産者や消費者の方々及び関係機関に配布しています。
- ご意見、掲載希望、また配布停止を希望される方は、下記までご連絡ください。

発行・編集

島根県農林水産部農産園芸課 (平成28年9月1日発行)

〒690-8501 松江市殿町1番地

E-mail econousan@pref.shimane.lg.jp

TEL.0852-22-6704/FAX.0852-22-6036

URL <http://www.pref.shimane.lg.jp/nosan-engei/>

Facebookアカウント名「島根県有機農業グループ」

(<https://www.facebook.com/shimane.yuuki>)

